

支援の記憶

台 風第12号の影響で町は、今まで経験したことのない甚大な被害に遭いました。

そういった中、9月5日に災害ボランティアセンターが開設され早期の生活復興に向けて尽力されました。また、国・県をはじめ各種団体からも、数多くの方々が支援に駆けつけ、町の早期復興に尽力いただきました。

そうしたさまざまな支援があり、町は着々と復興・復旧への歩みを進めました。そして、紀伊半島大水害の教訓から、浸水被害が多い地区での高台整備を行い、また、断水の経験から、6地区に耐震性貯水槽を新たに整備するなど、人の命が一番を基本に、10年間でソフト、ハード面でさまざまな整備を行いました。



被害は甚大。しかし、全国から温かい支援が。

災害時こそ人と人とのつながりを大切に

紀宝町社会福祉協議会

ほりきり たかこ
堀切 貴子 さん

ボランティアセンターを立ち上げた経緯は、平成16年台風第21号のボランティアに参加したときに、もし、紀宝町に大規模な災害が起きたら、ボランティアを調整する役割が必要だと考え、平成19年に組織を立ち上げました。また、ボランティアのリーダーとなる、コーディネーターも併せて育成を始めました。

そうした経緯があり、平成23年の台風第12号のときには、災害ボランティアセンターを開設しました。

今でも記憶に残っていることは、運営していく中で、ボランティアの募集を町内だけでなく、町外に広めると、瞬間に人が集まり、全国各地から駆けつけてくれたことです。改めて、人の温かさを感じました。一方で、被災地のニーズが刻一刻と変化しているため、常に新しい情報を収集しておくことの難しさを感じました。

紀伊半島大水害を受けて、現在では、災害ボランティアコーディネーターが約100人ほど在籍しています。

みなさん一人ひとりに今からでもできることはたくさんあり、どの世代の人でもそれぞれの役割があります。一緒に考えて考え、災害に強いまちづくりに取り組んでいきましょう。

01. 全国から支援物資が数多く届く。02. 自衛隊による給水活動（陸上自衛隊久居駐屯地広報室提供）。03. 家屋の片づけを行うボランティアのみなさん。04. 避難所前では、温かい料理を振る舞う炊き出しも行われました。05. 飛雪の滝周辺を清掃するボランティアのみなさん。06. 全国から紀宝町の復興のために集まったボランティアのみなさん。07. 復興支援イベント「元気で！紀宝町」。08. 復興を願う催し「鮎田みんなの復興祭」。09. 復興を祝う記念イベント「元気で！紀宝町川丈感謝まつり」。10. 大規模災害時の避難場所および救援・復旧活動の拠点として整備を進める成川高台防災公園。11. 一時避難所として令和3年度に整備された鮎田地区高台。

